

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	人間と生命		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング	bcxG	
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 知の探訪 (英文名) Guidance of Human Intelligence				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	初年次対象	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	徳島大学、研究、科学技術 / Tokushima University, Research, Technology				
21. 授業概要	大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。				☑
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。 とくに、大学では「研究する」ということが、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」とは何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。				☑
23. 授業の到達目標／学修課題	徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	①金西計英・高等教育研究センター「ガイダンス」 ／野地 澄晴・元 徳島大学学長「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」 ②高石 喜久・元 徳島大学副学長「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」 ③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開:ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍児・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」 ④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」 ⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」 ⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」 ⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」 ⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」 ⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか？」 ⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」 ⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」 ⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」 ⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」 ⑭原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」 ⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」 ⑯定期期末試験(レポート)	☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義後に関連する事項について復習する	☒
28. 成績評価の方法と基準	期末に定期試験(レポート)を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はe-ラーニング形態ですので、各回に課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います(各回の課題が5回以上未提出の場合は成績判定の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します(低い評価となる、あるいは、評価対象とならないといったことがあります)。	☒
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし
	連携大学学生向け	なし
		☐

30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学 <u>30</u> 名・徳島大学 <u>50</u> 名・鳴門教育大学 <u>30</u> 名・高知大学 <u>30</u> 名・愛媛大学 <u>30</u> 名				☒																																																			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください(e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。				☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知ブラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目			☐																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします			☐																																																			
	連携大学 学生向け				☐																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学人と地域共創センター 2階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			☐																																																			
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			☒																																																			

40. 教員の実務経験		☐
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き	☐
42. その他／備考		☐

2023年2月改訂

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	グローバル科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) モラエスの徳島 (英文名) Moraes' s Tokushima				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) グローバリズムと異邦人 (英文名) Globalism and People from Abroad				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kazuhide Kanenishi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人 / Moraes, Tokushima, Globalism, Cross-cultural Understanding, Alien				
21. 授業概要	ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を深め、同時に異文化理解というものを考える。				☒
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	グローバルという言葉が声高に叫ばれているが、その根底には越境ということがある。政治、経済、科学技術、医療、環境、文化、芸術など、ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで、複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは、ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物、芸術、文化の往来と影響関係には長い歴史があるが、それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として、徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは、何回か日本にやってきた後に、1899年から日本で暮らし、その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが、軍人、文人、外交官として、その当時の日本を、徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して、グローバリズムと異邦人ということを考えながら、異文化の理解ということを考えてみたい。				☒

23. 授業の到達目標／学修課題	徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ、異文化理解というものがどういうものか、現代のグローバルリズムの中で考えてみることを目標とする。		☒
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）			
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人—ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 5. モラエスの時代と同時代人—ジョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観—戦前と戦後 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1 11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2 12. 『おヨネとコハル』1 13. 『おヨネとコハル』2 14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1 15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2 16. 定期試験（レポート）		☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報			☐
28. 成績評価の方法と基準	毎回の簡単な感想と定期試験（レポート）の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので、毎回簡単な感想を提出してもらい、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに、毎週定期的に教材にアクセスしないで、定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合、成績評価に反映する。		☒
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☒
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：あり 香川大学30名・徳島大学30名・鳴門教育大学30名・高知大学30名・愛媛大学30名		☒

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。 同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。				☒																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td><td>書名</td><td colspan="3">徳島の盆踊り</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td>モラエス著,岡村多希子訳</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>ことのは文庫</td><td>出版年</td><td>2010年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td>※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません</td></tr> <tr> <td rowspan="4">教科書2</td><td>書名</td><td colspan="3">日本精神</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td>4-88202-379-2</td><td>著者名</td><td>モラエス著,岡村多希子訳</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>彩流社</td><td>出版年</td><td>1996年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>				教科書1	書名	徳島の盆踊り			I S B N		著者名	モラエス著,岡村多希子訳	出版社	ことのは文庫	出版年	2010年	金額		備考	※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません	教科書2	書名	日本精神			I S B N	4-88202-379-2	著者名	モラエス著,岡村多希子訳	出版社	彩流社	出版年	1996年	金額		備考		☒																	
教科書1	書名	徳島の盆踊り																																																						
	I S B N		著者名	モラエス著,岡村多希子訳																																																				
	出版社	ことのは文庫	出版年	2010年																																																				
	金額		備考	※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません																																																				
教科書2	書名	日本精神																																																						
	I S B N	4-88202-379-2	著者名	モラエス著,岡村多希子訳																																																				
	出版社	彩流社	出版年	1996年																																																				
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td><td>書名</td><td colspan="3">おヨネとコハル</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td>4-88202-915-4</td><td>著者名</td><td>モラエス著, 岡村多希子訳</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>彩流社</td><td>出版年</td><td>2004年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td><td>書名</td><td colspan="3">モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯</td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td>4-88202-558-2</td><td>著者名</td><td>岡村多希子</td></tr> <tr> <td>出版社</td><td>彩流社</td><td>出版年</td><td>2000年</td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td><td>書名</td><td colspan="3"></td></tr> <tr> <td>I S B N</td><td></td><td>著者名</td><td></td></tr> <tr> <td>出版社</td><td></td><td>出版年</td><td></td></tr> <tr> <td>金額</td><td></td><td>備考</td><td></td></tr> </table>				参考書1	書名	おヨネとコハル			I S B N	4-88202-915-4	著者名	モラエス著, 岡村多希子訳	出版社	彩流社	出版年	2004年	金額		備考		参考書2	書名	モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯			I S B N	4-88202-558-2	著者名	岡村多希子	出版社	彩流社	出版年	2000年	金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☒
参考書1	書名	おヨネとコハル																																																						
	I S B N	4-88202-915-4	著者名	モラエス著, 岡村多希子訳																																																				
	出版社	彩流社	出版年	2004年																																																				
	金額		備考																																																					
参考書2	書名	モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯																																																						
	I S B N	4-88202-558-2	著者名	岡村多希子																																																				
	出版社	彩流社	出版年	2000年																																																				
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目			☐																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jpまで電子メールで問い合わせてください。※(a)→@			☒																																																			
	連携大学 学生向け				☐																																																			

39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	☒
	連携大学 学生向け	marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	☒
40. 教員の実務経験			☐
41. バリアフリー対応			☐
42. その他／備考			☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	歴史と文化		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 日本におけるドイツ兵捕虜1914－1920 (英文名) German Prisoners of War in Japan 1914－1920				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 四国の収容所を中心に (英文名) Focusing on Camps in Shikoku				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kazuhide Kanenishi				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	捕虜、第一次世界大戦、青島(チンタオ)、ドイツ prisoners of war, World War I, Quingdao, Germany				
21. 授業概要	第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所—特に四国の収容所—における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテキストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をいただいたり、関連の場所を訪れたりする。				☑
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。				☑
23. 授業の到達目標／学修課題	1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテキスト				☑

	トの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。		
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）			
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 導入。板東を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所（久留米、福岡、熊本、大分） 5. 中国・近畿の収容所（姫路、青野原、似島、大阪） 6. 関東・東海の収容所（名古屋、静岡、東京、習志野） 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン？ 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツアイガー』 10. 板東収容所（1）。収容所新聞『ディ・バラッケ』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所（2）。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ポーネルとマイスナー。 13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史（世界と日本） 15. 捕虜待遇の歴史（捕虜と「武士道」） 16. 定期試験（レポート）		☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	各授業のビデオを見て、1)内容の自分なりのまとめ、2)感想ないし考察、3)質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の留意点については、メッセージの欄を参照のこと。		☒
28. 成績評価の方法と基準	上記の小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。		☒
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし。	☒
	連携大学学生向け	なし。	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限：あり 香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名		☒

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。 レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1)参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2)得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3)特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。				☒
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』		☒
		I S B N	4-8102-0450-2	著者名 瀬戸武彦	
		出版社	同学社	出版年 2006年	
		金額		備考	
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	『どこにしようと、そこがドイツだ』		☒
		I S B N		著者名 田村一郎(編著)	
		出版社	鳴門市ドイツ館	出版年 2006年(第3版)	
		金額		備考	
	参考書2	書名	『ディ・バラック』(1-4巻)		
		I S B N		著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会 訳・編集	
		出版社	鳴門市ドイツ館	出版年 1998年—2007年	
		金額		備考	
	参考書3	書名	CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」		
		I S B N		著者名 ドイツ館史料研究会 訳・編集	
		出版社	鳴門市ドイツ館	出版年 2012年	
		金額		備考	
	参考書4	書名	板東俘虜収容所		
		I S B N		著者名 富田弘	
		出版社	法政大学出版局	出版年 1991年、(新装版)2006年	
		金額		備考	
	参考書5	書名	松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォイアー」		
		I S B N	978-4-86087-149-9	著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会	
		出版社	愛媛新聞社	出版年 2019年	
		金額	2,800円	備考	
34. Webテキスト(URL・説明)	「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」ウェブサイト： http://koki.o.oo7.jp/tsingtau.html http://www.niji.jp/home/akagaki/D-indexb.html 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☒

35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		☐
37. 教員相互参観授業公開日程				☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	質問などについては、下記連絡先を参照のこと。		☐
	連携大学 学生向け			☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。		☒
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。		☒
40. 教員の実務経験				☐
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き			☐
42. その他／備考				☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	生活と社会		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 現代科学と研究倫理 (英文名) Modern science and research integrity				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次		
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用 /research ethics, research misconduct, FFP(fabrication, falsification, plagiarism)				
21. 授業概要	本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。				☑
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じるのが難しくなってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。				☑
23. 授業の到達目標／学修課題					☐

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	①金西 計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス) ②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」 ③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」 ④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」 ⑤楊河 宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」 ⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」 ⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」 ⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」 ⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」 ⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」 ⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」 ⑫金西 計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」 ⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」 ⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」 ⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」 ⑯定期試験(レポート)		☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報			☐
28. 成績評価の方法と基準	期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます(小課題)。単にビデオを視聴するだけではなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が5回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。		☒
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☐
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学20名・徳島大学40名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名		☒
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの			☐

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」			☐
		ISBN		著者名	『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)』	
		出版社	丸善出版	出版年	2015	
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知ブラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目			☐	
37. 教員相互参観授業公開日程						☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp) ※(a)→@で問い合わせること。				☐
	連携大学 学生向け					☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。				☐
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。				☒
40. 教員の実務経験						☐
41. バリアフリー対応						☐
42. その他／備考						☐

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	イノベーション科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 大学の知の活用 (英文名) Practical use of university's intellectual property				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 無し (英文名) 無し				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 山本 光治 (ローマ字) Koji Yamamoto				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2単位		13. 選必修区分／単位区分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	初年次対象	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	四国地域の大学、産学官連携、イノベーション、研究、知的財産 university in Shikoku, industry-academia-government collaboration, innovation, research, intellectual property				
21. 授業概要	本講義では、大学の知の活用に必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを紹介する。				☑
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	大学の知の活用に必要な基礎知識及び四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを知ることにより、その必要性や大学と地域との関わりを理解することを目的とする。				☑
23. 授業の到達目標／学修課題	1. 大学の知の活用に必要な基礎知識を説明できる。 2. 四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを列挙できる。 3. 大学の知の活用の必要性を実感する。				☑
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 井内健介准教授・徳島大学「大学の知の活用の全体像」 2. 秋丸國廣教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識①」 3. 恒川典之特任教授・高知大学「大学の知の活用に必要な基礎知識②」 4. 中川勝吾准教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識③」 5. 秋丸國廣教授・愛媛大学「大学の産学連携における地域貢献」 6. 石塚悟史教授・高知大学「大学の地域貢献」 7. 合谷祥一非常勤講師・徳島大学「四国地域における大学の知の活用に関する取組①」 8. 合谷祥一非常勤講師・徳島大学「四国地域における大学の知の活用に関する取組②」 9. 永富太一教授・香川大学「文系領域の産学連携プロジェクト」 10. 永富太一教授・香川大学「コンソーシアムからの産学連携プロジェクト」 11. 石塚悟史教授・高知大学「一次産業分野における産学連携」 12. 秋丸國廣教授・愛媛大学「愛媛大学における産学連携事例」 13. 松下一郎客員教授・徳島大学「青色LEDにおける大学の基礎研究の活用」 14. 久保田邦昭客員教授・徳島大学「パイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携①」 15. 久保田邦昭客員教授・徳島大学「パイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携②」			☒																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義後に関連する事項について復習する。			☐																	
28. 成績評価の方法と基準	本授業はe-ラーニング形態です。各回で出題する小課題(100%)で成績評価をおこないます。ただし、各回の小課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績を判定しません。			☐																	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		☐																	
	連携大学学生向け	無し																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学25名・徳島大学25名・鳴門教育大学25名・高知大学25名・愛媛大学25名			☐																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるものの	この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください(e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上で、本科目を履修するようにしてください。			☐																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" data-bbox="371 1794 1414 1989"> <tr> <td data-bbox="371 1794 520 1843" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="520 1794 679 1843">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="679 1794 1414 1843"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1843 679 1892">I S B N</td> <td data-bbox="679 1843 951 1892"></td> <td data-bbox="951 1843 1110 1892">著者名</td> <td data-bbox="1110 1843 1414 1892"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1892 679 1942">出版社</td> <td data-bbox="679 1892 951 1942"></td> <td data-bbox="951 1892 1110 1942">出版年</td> <td data-bbox="1110 1892 1414 1942"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1942 679 1989">金額</td> <td data-bbox="679 1942 951 1989"></td> <td data-bbox="951 1942 1110 1989">備考</td> <td data-bbox="1110 1942 1414 1989"></td> </tr> </table>			教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
教科書1	書名																				
	I S B N		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し		☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせはメールにてお願いします。			☐	
	連携大学 学生向け	物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにてお願いします。			☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 研究支援・産官学連携センター 山本光治教授 koji.yamamoto(a)tokushima-u.ac.jp ※(a) → @			☒	
	連携大学 学生向け	香川大学 社会連携・知的財産センター 永富教授 nagatomi.taichi(a)kagawa-u.ac.jp ※(a) → @ 高知大学 次世代地域創造センター 地域イノベーション部門 恒川特任教授 kt05(a)kochi-u.ac.jp ※(a) → @ 愛媛大学 社会連携推進機構 秋丸教授 akimaru.kunihiro.mu(a)ehime-u.ac.jp ※(a) → @ 鳴門教育大学 知的財産室 宮本教授 Kmiyamot(a)naruto-u.ac.jp ※(a) → @			☒	
40. 教員の実務経験	民間企業、技術移転機関、政府系機関等において、知的財産の活用に関する実務経験を有する講師が、大学の知を活用するために実務上、必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを、実例を交えて講義する。				☒	
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き				☐	
42. その他／備考	無し				☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	生活と社会		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学教育を考える (英文名) Thinking on University Education				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 無し (英文名) 無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 吉田博 (ローマ字) Hiroshi YOSHIDA				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	1～2年生		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1・2年次/全学部	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント(FD) Higher education policy, Undergraduate Program, Graduate Attributes ,Active learning, Faculty development				
21. 授業概要	大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 日本の大学教育の現状(背景・課題)を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. ガイダンス, 大学生へのメッセージ (吉田・久保田) 2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田) 3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田) 4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田) 5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田) 6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田) 7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田) 8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田) 9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田) 10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田) 11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田) 12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田) 13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田) 14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田) 15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田) 16. 定期試験(レポート) ※担当講師: 吉田 博 (徳島大学高等教育研究センター) 久保田祐歌 (関西福祉科学大学社会福祉学部)	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	本授業では、e-Learningによる授業動画を視聴した後に、クイズに答え、小レポート課題を作成します。また、小レポートをもとに他者との意見交換を行うことが必要としています。小レポートを作成する際には、授業動画の内容だけでなく、授業のテーマに関連する資料や文献などを見て、自身の理解や考えを深めたうえで作成してください。	☑
28. 成績評価の方法と基準	毎回のクイズ(15点)、毎回の小レポート提出(15点)、他者のレポートへのコメント(15点)、コメントに対する返信(15点)、期末レポート(40点)の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。 ※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信(60点配点)については、次のように確認します。吉田担当の授業(1,4,6,7,8,9,12回)の小テスト、小レポート、コメント等(28点配点)は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業(2,3,5,10,11,13,14,15回)は、小テスト、小レポート、コメント等(32点配点)は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。	☑

	※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。 ※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。 ※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。					
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し			☐	
	連携大学学生向け	無し				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名				☒	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☒	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知ブラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☒	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し		☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)で問い合わせてください。			☒	

	連携大学 学生向け		☐
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)	☒
	連携大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)	☒
40. 教員の実務経験			☐
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き		☐
42. その他／備考	無し		☐

2023年2月改訂

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	自然と技術	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 数理科学の展開 (英文名) Mathematics in various phenomena		
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)		
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西 計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide		
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分	なし
14. 対象学生	全学部	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全年次／全学部
16. 曜日・時限	なし	17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 特になし 連携大学 学生向け 特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け 特になし 連携大学 学生向け 特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	正多面体, 対称性, 小説, 美術, 歴史, パズル, 初等数学 regular polyhedron, symmetry, fiction, fine arts, history, puzzle, elementary mathematics		
21. 授業概要	数理科学の展開は前期の数理科学の世界を受けた講義ですが、前期と同じく一回ごとにテーマを決めて、原則一回完結の講義を行いますので、内容としては数理科学の世界とは独立しています。ですので本講義に於いては数理科学の世界を事前に受講する必要はありません。数理科学の展開では数理科学の世界よりも数学の比重が少し大きい話題を中心にした構成がされています。講義は数学の歴史、数学の応用について、文学、美術や音楽に関係した数学理論、数学者の人間像などについて行いますが、レベル的には数理科学の世界と同じく高校数学の内容で充分理解できるものです。		☐
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	数学は公式を当てはめて答えを出す印象が強い人も多いですが、本来はもっと生き生きとした内容の学問で、世の中の様々な事柄に関わっています。本講義では前期の数理科学の世界で紹介した内容よりも数学の色合いが濃く出ている世の中の事象について紹介していくつもりです。この講義を通して人間の様々な知的活動と数学の関りは深いと言う事を感じてもらい、結果として皆さんの数学に対する認識や理解が深まって頂ければと思います。		☐
23. 授業の到達目標 ／学修課題	・数学的概念や「数学する」ことを実感する。 ・数学が嫌いでなくなる。		☐

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 数について 2. 方程式の歴史 3. 白鳥の湖 4. ゲルハルト・リヒター 5. 定規と折り紙 6. バベルの図書館 7. アルキメデスの求積法 8. ニュートンとライプニッツ 9. 中国の数学と日本の塵劫記 10. 賭博の数学 11. 四色問題 12. 計算の話 13. ゲームの数学 14. 経済学 15. デカルトと座標 教科書は使いません。毎回資料を提示します。講義は原則一回完結を目指しています。 毎回の授業では、ビデオや資料の視聴と小テスト(30問程度の問題群から10問程度をランダムに出題)があります。	☐
27. 授業時間外学習にかかわる情報	適宜、参考資料を提示します。	☐
28. 成績評価の方法と基準	本科目に関しまして以下の基準で評価をさせていただきます。 1:毎回の資料及び動画は必ずMoodleにアクセスの上ご確認ください。全資料を確認して、「感想」を記入頂けますと一回の出席になります。一回の出席は1点に評価します。なお、「感想」の提出回数が10回未満の場合は、著しい減点を加えることがあります。 2:毎回30問の○×で答える小問が用意されています。15回の講義ですので合計で450題になります。期末試験にて各受講者へ、その450題の中から各回の問題よりランダムに6題選択され合計90題をweb上で出題しますのでweb上で解答してもらいます。 3:講義16回目が期末試験になります。通常の講義の時間に解答してもらいますので解答時間は90分になります。尚ランダムに問題を選択しますので、期末試験で選択される問題は受講者ごとに異なります。 正解の場合は1問1.5点で評価させていただきます(不正解は0点)	☐

	4:上記1:と3:の合計点を100点換算した得点(但し小数点以下は四捨五入)が最終得点になります。つまり $((\text{出席の点数} + \text{期末試験の点数}) / 150) \times 100$の小数点以下四捨五入が最終得点です。この得点で評価します。 5:毎回用意される30題は自主学習として講義終了後に何回も解答が可能です。ただし、この自主学習の解答結果は評価には加えません。授業計画は修正になることがあります。詳細は授業支援システム(Moodle)にあげます。			
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		☐
	連携大学学生向け	なし		
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし 香川大学__名・徳島大学__名・鳴門教育大学__名・高知大学__名・愛媛大学__名			☐
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第15回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。受講方法の詳細については、LMS内のガイダンスを参照してください。			☐
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名		
		I S B N	著者名	
		出版社	出版年	
		金額	備考	
				☐
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名		
		I S B N	著者名	
		出版社	出版年	
		金額	備考	
	参考書2	書名		
		I S B N	著者名	
		出版社	出版年	
		金額	備考	
	参考書3	書名		
		I S B N	著者名	
		出版社	出版年	
		金額	備考	
				☐
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知ブラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/			☐
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		☐
37. 教員相互参観授業公開日程				☐

38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メールを利用してください。	☐
	連携大学 学生向け	電子メールを利用してください。	☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	☐
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	☒
40. 教員の実務経験			☐
41. バリアフリー対応			☐
42. その他／備考			☐

2023年2月改訂

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング教材による非同期型授業 自学自習	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	人間と生命		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 文化心理学入門 (英文名) An Introduction to Cultural Psychology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 無し (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西 計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学生		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	無し	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	心理学、教育、学習、発達、認知／psychology, education, learning, development, cognition				
21. 授業概要	心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	心理学の歴史を知ること、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ること、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)																					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	※授業内容は変更になる可能性があります。 1. 「科学的な方法」ってなに？－心の社会・文化・歴史性－ 2. 「個人」と「社会」はどちらが先か？－ピアジェとヴィゴツキーの考え方－ 3. 「道具」は何を変える？－「媒介された行為」の概念－ 4. 実験室は「真空」か？－心理学実験の生態学的妥当性－ 5. 世界がヒトに「語りかけてくる」？－生態学的心理学とアフォーダンス－ 6. 学習は「獲得」か？－状況的学習論－ 7. 学校はなにを教えるのか？－学校教育への社会・文化的アプローチ－ 8. 大人は子どもになにができる？－ポストモダンの発達支援－			☒																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			☒																	
28. 成績評価の方法と基準	毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。 ・合計点が60点以上である。 ・小レポートを5回以上提出している。			☒																	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		☒																	
	連携大学学生向け	無し																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学40名・徳島大学40名・鳴門教育大学40名・高知大学40名・愛媛大学40名			☒																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。			☒																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>I S B N</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
教科書1	書名																				
	I S B N		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	文化心理学－発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ			☐
		I S B N	978-4788508170	著者名	マイケル・コール	
		出版社	新曜社	出版年	2002	
		金額	5,500 + 税	備考		
	参考書2	書名	社会と文化の心理学－ヴィゴツキーに学ぶ－			
		I S B N	978-4790715375	著者名	茂呂雄二・田島充士・城間祥子(編)	
		出版社	世界思想社	出版年	2011	
		金額	2,500 + 税	備考		
	参考書3	書名				
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Web テキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目			☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします			☐	
	連携大学 学生向け				☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			☐	
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			☒	
40. 教員の実務経験					☐	
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き				☐	
42. その他／備考					☐	

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群	4. 授業形態／授業種別	eラーニング
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	地域科学科目	6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 徳島を考える (英文名) Geography and Culture of Tokushima		
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) (英文名)		
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 豊田 哲也 (ローマ字) Toyoda Tetsuya		
10. 時間割コード／申請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	1	13. 選必区分／単位区分	なし
14. 対象学生	1～2年全学部	15. 対象年次／区分等／標準履修年次	1・2年次／全学部
16. 曜日・時限	なし	17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 特になし 連携大学 学生向け 特になし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け 特になし 連携大学 学生向け 特になし
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	徳島県、自然、歴史、伝統、産業 Tokushima prefecture, Nature, History, Tradition, Industry		
21. 授業概要	徳島県の自然環境や歴史、文化、産業に関するテーマを様々な側面から取り上げて講義する。具体的には、吉野川の地形環境、藍産業の歴史、特産地の形成などの一端を紹介する。		☒
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	わたしたちはグローバルな時代にありながらも同時にローカルな社会に生きている。インターネットがいかに発達したとしても、自宅を建てたり(居住)、学校で学んだり(教育)、職業に就いたり(労働)、病院に行ったり(医療)、わたしたちの生活の基盤が地域の社会や経済の上に成り立っていることは変わらない事実である。東日本大震災の経験は、わたしたち一人一人の運命もまた地域の環境や共同体と不可分であることを教えてくれた。わたしたちがよりよい未来を望むならば、身のまわりの地域がどのような特性を持っているのか、いかなる課題に直面しているのかを理解し、持続可能な地域づくりを進めていかなければならない。もちろん、一言で地域的課題と言ってもその内容はさまざまである。大都市地域では人口集中や産業空洞化が叫ばれる一方、「地方」では過疎や人口高齢化などが深刻化し、伝統文化も大きく変容してきている。こうした地域差には、それぞれの地域における地理的・歴史的・文化的な背景の違いが反映されている。この講義では身近な地元である徳島県を取り上げ、さまざまな視点から地		☒

	域の特性を明らかにし、取り組むべき地域的課題について考察する。		
23. 授業の到達目標／学修課題	他県の人に対して、以下の項目を説明できる。 1. 徳島県の自然や歴史と伝統文化 2. 徳島県の産業や経済の特色		☐
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）			
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業計画】 ※授業内容は変更になる可能性があります。 1. 吉野川の自然と治水 2. 阿波藍が支えた徳島の発展 3. モラエスがくらしした徳島 4. すだちの特産地形成 5. 明石海峡大橋の経済効果 6. 上勝町の葉っぱビジネスとごみゼロ運動 7. 四国遍路の歴史と文化的意義 8. 総括		☒
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。		☒
28. 成績評価の方法と基準	7回の小テストを計70点満点、期末レポートを30点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験（提出）回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。		☒
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し	☐
	連携大学学生向け	無し	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	徳島大学教養教育院で開講される「徳島を考える」を受講済みの学生は、この授業を受講できない。 受講人数制限：あり 香川大学50名・徳島大学50名・鳴門教育大学50名・高知大学50名・愛媛大学50名		☐
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、Moodle上のガイダンスを参照すること。		☒

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 159 517 353" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="517 159 676 203">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 159 1414 203"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 203 676 248">I S B N</td> <td data-bbox="676 203 948 248"></td> <td data-bbox="948 203 1107 248">著者名</td> <td data-bbox="1107 203 1414 248"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 248 676 293">出版社</td> <td data-bbox="676 248 948 293"></td> <td data-bbox="948 248 1107 293">出版年</td> <td data-bbox="1107 248 1414 293"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 293 676 353">金額</td> <td data-bbox="676 293 948 353"></td> <td data-bbox="948 293 1107 353">備考</td> <td data-bbox="1107 293 1414 353"></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 405 517 600" rowspan="4">参考書1</td> <td data-bbox="517 405 676 450">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 405 1414 450"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 450 676 495">I S B N</td> <td data-bbox="676 450 948 495"></td> <td data-bbox="948 450 1107 495">著者名</td> <td data-bbox="1107 450 1414 495"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 495 676 539">出版社</td> <td data-bbox="676 495 948 539"></td> <td data-bbox="948 495 1107 539">出版年</td> <td data-bbox="1107 495 1414 539"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 539 676 600">金額</td> <td data-bbox="676 539 948 600"></td> <td data-bbox="948 539 1107 600">備考</td> <td data-bbox="1107 539 1414 600"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 600 517 795" rowspan="4">参考書2</td> <td data-bbox="517 600 676 645">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 600 1414 645"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 645 676 689">I S B N</td> <td data-bbox="676 645 948 689"></td> <td data-bbox="948 645 1107 689">著者名</td> <td data-bbox="1107 645 1414 689"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 689 676 734">出版社</td> <td data-bbox="676 689 948 734"></td> <td data-bbox="948 689 1107 734">出版年</td> <td data-bbox="1107 689 1414 734"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 734 676 795">金額</td> <td data-bbox="676 734 948 795"></td> <td data-bbox="948 734 1107 795">備考</td> <td data-bbox="1107 734 1414 795"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 795 517 990" rowspan="4">参考書3</td> <td data-bbox="517 795 676 840">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 795 1414 840"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 840 676 884">I S B N</td> <td data-bbox="676 840 948 884"></td> <td data-bbox="948 840 1107 884">著者名</td> <td data-bbox="1107 840 1414 884"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 884 676 929">出版社</td> <td data-bbox="676 884 948 929"></td> <td data-bbox="948 884 1107 929">出版年</td> <td data-bbox="1107 884 1414 929"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="517 929 676 990">金額</td> <td data-bbox="676 929 948 990"></td> <td data-bbox="948 929 1107 990">備考</td> <td data-bbox="1107 929 1414 990"></td> </tr> </table>				参考書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☒																																																			
35. パソコン必要度	必要。Moodleの操作ができること。	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	☐																																																				
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp)を利用してください。			☒																																																			
	連携大学 学生向け	電子メール(toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp)を利用してください。			☒																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp			☒																																																			
	連携大学 学生向け	toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp			☒																																																			
40. 教員の実務経験					☐																																																			
41. バリアフリー対応					☐																																																			
42. その他／備考	なし				☐																																																			

シラバス基本情報

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず、無しと記入してください)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分は想定内容をあらかじめ記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えて欲しい内容にはチェックボックスへチェック☑を入れてください。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2025		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	生活と社会		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 学びをデザインする: インストラクショナルデザイン入門 (英文名) Designing for Learning: A Guide to Instructional Design				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 田巻 公貴 (ローマ字) Tamaki Koki				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全年次／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	インストラクショナルデザイン, 学習理論, 授業設計, 研修設計, 教育工学 Instructional Design, Learning Theories, Lesson Plan, Training Design, Educational Technology				
21. 授業概要	みなさんは、これまで様々な学びの場を経験してきたと思います。その中で、この授業は面白い！もっと学びたい！と感じたことはあるでしょうか。そして、どうしてよいと感じたのでしょうか。本授業では、よい学びの場を自ら設計できるようになることを目指します。 インストラクショナルデザイン(Instructional Design: ID)とは、教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスを指します。 本授業では、学習理論の変遷から、授業設計の方法、学習者への動機づけ、評価方法など、IDの基本的な理論を扱います。さらに、ICTやAIなどのテクノロジーを活用した授業設計や、新たな学びに対応し続けるために必要な要素についても探求します。そして、学びをもとに、授業・研修・ワークショップ等を実際に設計していきます。 本授業を通じて、みなさんが設計する学びの場が、学習者の成長を支援するための授業設計となることを目指します。				

22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	本授業の目的は、インストラクショナルデザインの知識・技能を習得し、効果的・効率的・魅力的な学びの場を設計できる力を身につけることを目指します。インストラクショナルデザインの理論と実践を通して、教育現場や、企業研修など様々な場面の学習環境を設計・改善できる人材への成長を目標とします。インストラクショナルデザインの専門家として、学習者の学びを支援し、よりよい社会の実現に貢献できる素養を養います。	☐
23. 授業の到達目標 ／学修課題	・ID諸理論についての説明ができるようになる ・ID諸理論に基づいた授業設計ができる ・多様な学習者や学習目標に応じた学びの場を設計することができる ・ICTやAIなどの新しい教育技術を学びに組み込むことができる ・設計した学びの場を批判的に考えることや、改善を行うことができる	☐
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 教育工学とインストラクショナルデザインの概要 2. 授業設計の考え方 3. 学力と学習目標の設定方法 4. 教材研究とその活用方法 5. 学習者分析の方法と活用 6. 授業を構成する要素と設計 7. 授業の成果を評価する方法 8. 学習意欲の基礎 9. 動機づけ理論の応用 10. 新しい学習観と学びの多様化 11. 学習者中心設計の実践 12. ICT・AIの活用による学びの拡張 13. 学習分析の基礎 14. eラーニングと反転授業の設計 15. 授業研究と授業改善の方法 16. 最終課題 ※授業内容は変更になる可能性があります。 教科書等はいりません。 参考書として、各講義内容をより深く学びたい方に向けた参考文献を、講義毎に提示します。 毎回の講義では、ビデオの視聴と、講義内容に応じた課題があります。	☐
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	各講義を受講した後、講義内容に応じた課題を課しています。 一例として、ミニテスト、レポート、フォーラムでの議論、授業設計などがあります。	☐

28. 成績評価の方法と基準	本授業に関する成績評価基準は以下の通りです。 ・授業でのミニテスト(15%) : 前回講義で紹介した理論等が理解できているか評価します。 ・課題の提出と質的評価(45%) : 授業設計課題, レポート等について, 学んだ理論を反映して行えているか, 情報収集し, 自分の意見を述べられているかを評価します。 ・フォーラムへの参加(30%) : フォーラムへの参加状況, コメント内容等を評価します。 ・最終課題(10%) : 最終成果物(授業指導案)を評価します。				☐		
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☐		
	連携大学学生向け	なし					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限: あり 香川大学50名・徳島大学50名・鳴門教育大学50名・高知大学50名・愛媛大学50名				☐		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第15回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。受講方法の詳細については, LMS内のガイダンスを参照してください。				☐		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			☐		
		I S B N	著者名				
		出版社	出版年				
		金額	備考				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン			☐	
		I S B N	978-4-7628-2883-6	著者名	稲垣忠, 鈴木克明(編著)		
		出版社	北大路書房	出版年	2015年		
		金額	2200円+税	備考			
	参考書2	書名	インストラクショナルデザインの原理				
		I S B N	978-4-7628-2573-6	著者名	R.M.ガニエ, W.W.ウェイジャー, K.C.ゴラス, J.M.ケラー(著) 鈴木 克明, 岩崎 信(監訳)		
		出版社	北大路書房	出版年	2007年		
		金額	3800円+税	備考			
	参考書3	書名	学びを育む 教育の方法・技術とICT活用 教育工学と教育心理学のコラボレーション				
		I S B N	978-4-7628-3242-0	著者名	岩崎 千晶, 田中 俊也(編著) 山田 嘉徳, 中谷 素之, 平山 るみ, 木村 明憲, 根本 淳子, 渡辺 雄貴, 宇治橋 祐之, 黒上 晴夫, 中川 一史, 今野 貴		

					之, 林 向達, 植田 詩織, 岸 磨貴子, 山田 剛史, 遠 海 友紀, 久保田 賢一, 小 柳 和喜雄(著)	
	出版社	北大路書房	出版年	2024年		
	金額	2300+税	備考			
34. Web テキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/					☐
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		なし		☐
37. 教員相互参観授 業公開日程						☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	質問等は, 下記連絡先を参照してください.				☐
	連携大学 学生向け					☐
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 田巻研究室 Email: tamaki.koukiあつとtokushima-u.ac.jp ※あつと→@				☐
	連携大学 学生向け	Email: tamaki.koukiあつとtokushima-u.ac.jp ※あつと→@				☐
40. 教員の実務経験	高等学校教員としての実務経験を持っています. 実務経験と, 本講義で扱うID諸理論を結びつけ, 理論 と実践の両面から内容を構成し, 授業を実施します.					☐
41. バリアフリー対応						☐
42. その他／備考						☐